

論文番号	4 (第 11 回研究会 2013.11.23 於 恵泉女学園大学)
タイトル	化学専門用語「高分子」「低分子」の非対称性に関する一考察
著者名(所属)	高野明彦 (東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻修士課程学生)
連絡先 Eメール	takano.a.aa@m.titech.ac.jp
<p><b>論文内容</b></p> <p>(背景および研究目的)</p> <p>本研究は化学専門用語「高分子」と「低分子」の用法の違いを明らかにする。「高分子」は基礎的な化学専門用語であるが、「高分子」とその関連用語の意味や用法にはゆれがあり、それがコミュニケーションの齟齬につながる恐れがある。筆者はこの問題の解決を目指し、これまで化学専門文献と一般向け文献の対照により「高分子」とその関連用語を含む複合名詞の使用傾向および複合名詞中の「高分子」「低分子」の多義性を明らかにしたが、その際、対義関係にある「高分子」と「低分子」の使用傾向の違いが示唆された。使用規則が単純であるべき専門用語においてこのような現象が見られることは一般語との対照の観点から見ても大変興味深い。そこで今回は「高分子」「低分子」が語構成要素として生産的に用いられている化学専門文献に特化し、それぞれの語の意味と用法を詳細に調査した。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>化学専門文献として 2011 年と 2012 年の日本化学会春季年会予稿集を用いた。資料より、合成語「高分子化」「低分子化」および、「高分子樹脂」「低分子アミン」などの「高分子+具体名詞」「低分子+具体名詞」を抽出した。これらの語は、語構成要素「高分子」「低分子」に観察される多義性 (①モノ、②性質) が合成語の多義性に受け継がれ得る<sup>1</sup>。さらに、語彙化された合成語を除外するため、抽出した語のうち、化学および高分子科学の用語集に見出し語が掲載されてらず、予稿中にも語の定義が記述されていない語のみを選別して分析対象とし、その用法および語構成要素「高分子」「低分子」の意味を分析した。また、「高分子+具体名詞」「低分子+具体名詞」については、連語「高分子+の+具体名詞」「低分子+の+具体名詞」と用法を比較した。</p> <p>(結果および考察)</p> <p>「高分子化」「低分子化」は語構成要素「高分子」「低分子」の多義性を受け継ぎ、それぞれ①「低分子が高分子になること」「高分子が低分子になること」と、②「高分子量になること」「低分子量になること」の 2 通りの意味で用いられていた。分子量に関する記述、助詞および副詞との共起などから意味の同定を行ったところ、「低分子化」のほうが②の意味で用いられやすいことが明らかになった。「高分子+具体名詞」「低分子+具体名詞」においても同様の傾向が示唆された。これらの結果は、「低分子」に明確な定義がないことが原因ではないかと考察した。また、連語「高分子+の+具体名詞」「低分子+の+具体名詞」は合成語の形式よりも②の意味で用いられにくいことが分かった。</p> <p>(結論)</p> <p>化学専門文献で用いられる「高分子」「低分子」の合成語および連語での意味・用法を調査した。その結果、用法の非対称性が明らかになった。</p> <p>注</p> <p>1 語構成要素の多義性が合成語の多義性に受け継がれることに関しては、斎藤倫明(2004)の語構成モデルにおける考え方を援用する。</p>	
<p><b>参考文献</b></p> <p>斎藤倫明(2004)『語彙論的語構成論』ひつじ書房</p> <p>【資料】日本化学会第 91 春季年会 (2011 年) 講演予稿集 日本化学会第 92 春季年会 (2012 年) 講演予稿集</p>	